



目指す学校像「鶴瀬小でよかった!!」

富士見市立鶴瀬小学校  
令和5年度学校だより  
7月夏休み前号  
令和5年 7月20日

# おいちょう

## 「加点法」の視点も

校長 野村 佐智夫

長かった1学期も、今日で最終となります。温かな春の日差しが降り注ぐ4月当初からギラギラと照り付ける日差しの中過ごした今日まで、様々な形で子供たちを、学校を支えてくださり、本当にありがとうございました。子供たちは終業式を迎え、通信簿を“学習や生活の記録”として持ち帰りました。

数年前、ある保護者の方と話している中で、こんなお話をうかがいました。

「自分が小学生の時の成績は、正直、よく覚えていません。それでも、今でも小学生の時の様子が思い出されるのは、担任の先生が書いてくれた「学校から」の親や私にあてたメッセージが手元に残っているからです。自分では忘れていたようなことにも触れて『～～、さりげなく〇〇をしてくれる〇〇さんは、本当に頼もしい存在です。』などと書いてくれているのを読み返すと、先生は私のいいところを探して見つけて、書いてくれたんだな、とうれしく思います。」

私も「いい先生だな。すてきだな。」と思います。

さて、その様な文章は、できていること、がんばっていること、伸びが見られたこと、友達とのかかわりの中で見られたよさなどを視点に書いています。言ってみれば、お子さんの様子を「加点法」でとらえてお伝えしています。もちろん、今後への期待は、どのお子さんにもありますし、そこは何も伝えないわけではなく、日常の話の中で伝えてきています。ただ、中には、結果だけ見ると同じような状況でも、日々の取り組み方に大きなちがいがあっても珍しくありません。そのようなことをお伝えできるようにするためにも、「学校から」に書く文章を大切にしていますし、「加点法」でとらえてお伝えしています。

保護者の立場で通信簿をご覧になって、言いたくなることはあるだろうと思います。その内容は、私の子供時代の経験を基にすると、「その通りです…」としか言い返せないような、「減点法」でとらえたものが多くなることも、重々、承知しています。それは、お子さんのことを思う親心からだということも、よくわかっています。その上で、よかったら、「加点法」でとらえたことも取り上げていただいたり、様子を聞いていただいたりできたら、ありがたく思います。人間、表に出すかどうかは別にして、自分のできていないことは結構わかっているものなので…。

今日持ち帰る通信簿には、担任が「学校から」の欄に、お子さんの様子を見取って気づいたこと、これから期待していることなどを書いていきます。長い1学期の学校生活の中の様子を網羅してお伝えすることはできませんが、わずかでもお子さんの様子が伝われば…。